プロジェクト名：「場所」と「場」の概念にもとづく都市計画方法の探究
プロジェクト代表者：岩見良太郎氏（経済学部・教授）

表題：「場」「場所」「結い」の概念構成

はじめに

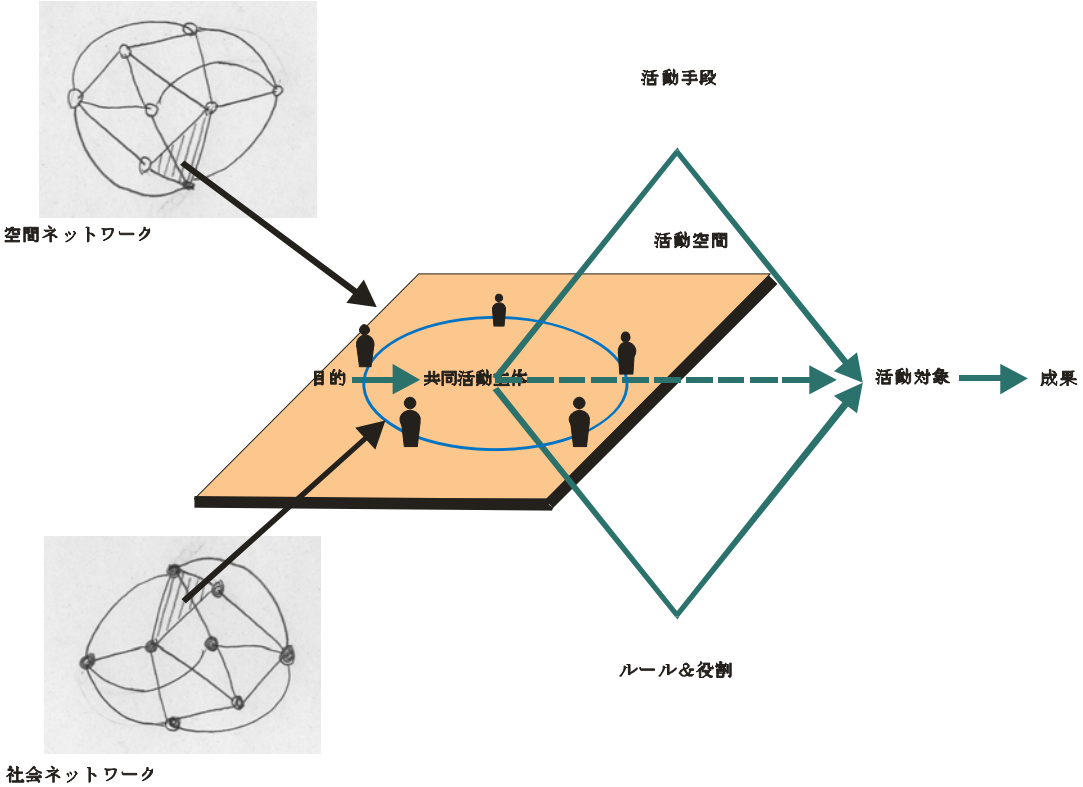
本研究テーマは、Ⅰ　場の理論、Ⅱ　都市計画批判、Ⅲ　場の都市計画の三部から構成される。今回のプロジェクトは、Ⅰの課題に属する。場の概念とかなり近接する、ヴェンガーのコミュニティオブプラクティス、ソーシャル・キャピタル論及びエンゲストロームの拡張理論の批判的摂取を通じて、場概念の彫り をめざすものである。その一部はすでに、「科学研究費補助金研究成果報告書」において、“Social Capital and *Ba*: A Synthesis”としてまとめた。

１．日常生活と活動

本研究の目的は、豊かな日常生活をもたらす都市計画の方法論の探求にある。したがって、まず日常生活、その構成要素としての活動が分析の端緒として設定されねばならない。
活動は、一定時間、一定の空間を占め、一定の人々と関係を取り結ぶことによって実現される。

２．活動の基本モデル

活動は空間ネットワークと社会ネットワークから、目的に合致した空間ネットワークユニット＝活動空間と、社会ネットワークユニット＝共同活動主体を分節・抽出し、それによって設定された共同主体が、ある活動目的の実現をめざし、活動空間において、活動用具を用いて、活動対象に働きかけ活動をおこない、成果を獲得する。



３．場・場所・結いの概念

（１）場

①日常語としての場：ある活動が展開される空間であるが、それは想定された、未実現の空間であり、抽象的・一般的なものに止まる（遊び場、話し合いの場、憩いの場・・・）。

②意味空間としての場

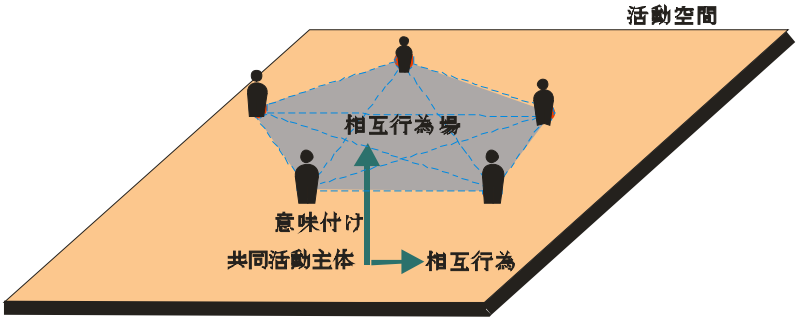
【相互行為場】

・人－人の相互行為（作用）から生み出される意味空間

・意味空間は他者の主観の解釈から構成される。したがって、意味空間は個人によって差異を見せる－→意味空間は重層的

・重層的意味空間は個人によって読み取られ、瞬時的に統合され、一つ意味空間＝場となる

・場相互行為は、活動の進展の中で、その微分要素である行為とともに、刻々変化する。



【（物的）空間場】

・活動に関与する空間構成諸要素の相互作用によって、生み出される意味空間。

・ただし、相互作用は、空間への肉体的・精神的働きかけ－→意味構成として生まれるのであり、空間諸要素が直接相互作用するのではない（相互作用は比喩的表現）

・意味づけは、活動の微分的要素である行為とともに変化する。行為によって焦点化され、意味づけされる。それ故、空間場は行為の連続としての活動の進展の中で、刻々変化する。

【相互行為場と空間場の相互作用と融合】

・両者は同時的に生成し、相互作用する。

・空間場と相互行為場は、主体の中で一つの場に融合する。ただし、同時的に認識できない（図と地の関係と同じ）

・場は活動の進展の中で、刻々変化する。

（２）場所と結い

①日常語としての場所：場がある特定の物的空間を占めたとき場所となる。

②意味づけられた空間、社会ネットワークとしての場所、結い

・ある活動が終了したとき、その間に体験した場は、圧縮された形で記憶として残る。その際、意味的に圧縮された場は、安定した二つの定在に沈着する形で記憶される。

・圧縮された場が空間ネットワークユニットに沈着したとき場所となり、社会ネットワークユニットに沈着したとき、結いとなる。

・空間ネットワークユニット、社会ネットワークユニットは、繰り返し活動で使用されるに従って、場所ないし、結いが濃密に蓄積されていき、場所性、結い性を強めていく（現前の場所に記憶の場所が重なり、共振する）。